

目黒・世田谷両区長に聞く 新年度の主要施策

南東京集

東京都世田谷区長

保坂展人氏



「26年度当初予算案では、まちづくりや暮らしに関し、どのような考えに基づき編成しましたか。」
「25年度からの5年間に具現化すべき取り組みなどを示した目黒区実施計画の2年目で、『快適で暮らしやすい持続可能なまちづくり』『安全で安心して暮らせるまちづくり』を目標として引き続き取り組む。区民生活に必要な都市インフラの維持や生活に欠かせない駅前整備、人口密度が高いにもかかわらず住宅率が70%を超えることから災害に強いまちづくりを進める。」
「駅前整備では自由が丘駅周辺地区の動きが活発です。『駅周辺地区の整備は区全体の魅力向上につながる重要な取り組みだ。同地区では地域の建物の老朽化や道路などの基盤整備の遅れ、東急東横線と東急大井町線によるまちの分断など多くの課題があった。区はこれら課題に対して、26年度当初予算案に総額37億3290万円を計上し、取り組み、地域の魅力を向上させることで訪れる人々や住民にとって快適で利便性の高いまちの実現を目指している。26年度当初予算案に総額37億3290万円を計上し、取り組み、地域の魅力を向上させることで訪れる人々や住民にとって快適で利便性の高いまちの実現を目指している。」

公民連携で駅前整備加速

東京都23区の南西部に位置する目黒・世田谷両区は、都内屈指の閑静で緑豊かな高級住宅街が点在するエリアだ。世田谷区は人口約82万人、世帯数約50万世帯ともに都内一を誇る。一方、目黒区は約28万人、同約16万人だが、人口密度が比較的高い。2026年度当初予算案は、目黒区が「守る、つなぐ、未来へ活かす」責任と希望をかたちにすべく、世田谷区が「次世代を育む暮らし応援予算」として編成。一般会計はそれぞれ1620億円、4313億円と過去最大となった。持続可能なまちづくりについて、青木英二(目黒区)と保坂展人(世田谷区)区長に聞いた。

デジタル通貨「機会」拡大

「選ばれた区になるために編成した26年度当初予算案のポイントは何ですか。」
「24年度に策定した8カ年の基本計画に掲げた『持続可能な未来を確保し、あらゆる世代が安心して住み続けられる世田谷をともにつくる』を実感できるように、目黒区策の一として子育て・若者夫婦世帯の定住・住み替え応援事業『ずつ』、世田谷区を新規で盛り込んだ。子育て世代の30代、40代の人口が減っていると同時に0歳から4歳の転出超過傾向が続いている。持続可能な区とするため、転出抑制につながる居住支援は、単なる経済的支援ではなく、地域の活力を維持するための重要な施策と捉えています。」



「地域経済の持続可能な発展を支えるデジタル通貨『せたがやPay』の利用機会を拡大する計画です。」
「スマートフォンのアプリケーションを用いて区内の利用者が区内加盟店でキャッシュレス決済が可能で、1月末時点で加盟店は前年同月比11%増の6332店、アプリは同30%増の55万9542ダウンロード、累計決済総額は同45%増の約494億円となっている。アプリ利用者の9割以上が世田谷区民だ。区基本計画の重点施策の一つとして掲げる『安全で魅力的な街づくりと産業連携による新たな価値の創出』のうち、『多様な地域産業の持続可能性確保に向けた基盤』に位置付けている。」

省力化投資補助金 積極活用を

「これら3事業地区のまちづくりには、多様なステークホルダーの関与が求められ、そういう意味では自由が丘のまちづくりは公民連携の賜物だ。」
「区内には現在約20の商店街がある。商店街の活性化のためには、商店街関係者が自ら考え行動し、行政が必要な協力や支援を行っていくことが重要だ。区は26年度も継続して、具体的な取り組みは、『三つの市街地再開発事業を中核とする。このうち26年度秋の『自由が丘一丁目29番地区』では地上15階、地下3階建てのランドマーク的な商業施設と賃貸マンションの複合ビルが開発予定だ。三つの再開発事業により自由が丘の新たな価値の創出や、事業地周辺の道路整備による安全な歩行空間、オープンスペースの整備を実現させる。地域のまちづくりには、多様なステークホルダーの関与が求められ、そういう意味では自由が丘のまちづくりは公民連携の賜物だ。」

モノづくり人材育成 後押し

「26年度当初予算案で、産業の再活性化や新しい価値を創出する人材の育成など、区内産業のイノベーションを創出・加速し、地域経済の持続的な発展を目指す観点として25年4月に開設、同7月にランドオープンし、好スタートを切っている。26年度もハズオン支援事業や維持管理経費などを予算案に計上した。このほかにも、事業計画に定め、アクセラレータープログラムや創業セミナーなど、事業者支援の取り組みを進めている。」
「26年度当初予算案に新規で民間路線バス事業者への支援策として2億8894万円を計上した。減便抑制、労働環境改善、運転士の社会的認知度向上の3方向から取り組む。利用者がコロナ前に戻りつつある。また、運転士不足に伴う減便や路線廃止も発生している。持続可能な地域公共交通の確保に向け、路線バスを区民の日常の移動を支える公共インフラに位置付ける。」
「区内モノづくり製造業をはじめ、これまで地域を支えてきた区内産業の基盤を強固にし、区の経済活動のさらなる活性化と振興を促進していくことが重要だ。時代背景を踏まえた世田谷工業の競争力維持と活性化に取り組むとともに、区内工業の魅力発信と未来のモノづくり人材育成につながる連携や取り組みを積極的に後押ししていく。」

社会を動かす現場に 点呼という確かな基盤を Cagou

物流、建設、製造、医療、サービス業。
人と車が動く現場で、今日も当たり前に行われる点呼。その一つひとつの積み重ねが、社会の安全と信頼を支えています。

物流ドライバーの安全と法令順守を支える
クラウド型点呼システム
カゲー
Cagou IT点呼

社車で働く人の安全運転管理を支える
クラウド型飲酒検査システム
カゲー
Cagou IT点呼 for 白ナンバー

自動車運送事業者向け
点呼の標準化と法令順守
点呼記録の一元管理

白ナンバー事業者向け
飲酒検査管理のデジタル化
検査結果の一元管理

株式会社コアはICTで、現場と経営、双方に確かな安心を届けます。

展示会情報 ジャパントラックショー2026 会期：5月14日(木)～16日(土) 会場：パシフィコ横浜

製品詳細はこちら
製品詳細はこちら

株式会社コア
自動車運送事業者向け
Cagou IT点呼
https://www.core.co.jp/

白ナンバー事業者向け
Cagou IT点呼
for 白ナンバー

ものづくり企業を応援する新しいサービスです
～城南ものづくりコンソーシアムサービス～

「城南ものづくりコンソーシアムサービス」は、城南信用金庫が東京・神奈川エリアの多様なお取引先製造業とのネットワークを活かして、発注元企業様のニーズに適した発注先企業をご紹介します。

新たな発注企業との出会い! 新たな外注先や協力先との出会い!

- ✓ 個性的な尖った技術力のある会社も紹介できます!
- ✓ ネット検索では見つからない会社もご紹介できます!
- ✓ 回路設計から製造まで一貫対応している会社もあります!
- ✓ 図面作成から請け負うことが出来る会社もあります!
- ✓ 短納期・小ロットなど柔軟に対応できる会社も多数あります!
- ✓ ご紹介先は当金庫の取引先が中心で東京・神奈川の企業です!

【お問い合わせ先】
電話：03-3493-8128 mail:jcon@jsbank.co.jp
城南信用金庫 企業経営サポート部 ものづくりコンソーシアム担当

南東京集

キラリと光る我が社の イチ押し製品・サービス

独自の高度な技術を武器に、産業の最前線を支えるトップランナーたち。今回はICT(情報通信技術)を通じて新たな価値を共創するコアをはじめ、日東工器、富士ダイス、大崎電気工業、巴工業の5社を紹介する。社会課題の解決に挑む各社の「イチ押し」を深掘りした。激変する社会情勢のなか、各社が磨き続ける製品・サービスの現在地を追う。

日東工器

ベルトサンダー、自動機向け機種拡販

自動機向けベルトサンダー「ベルトンB-10-RBT-S」

日東工器は迅速流体継ぎ手「カブラ」を主力に、機械工具やリニア駆動ポンプなどの製造・販売を手がける。研究開発力を強みとする同社は、ベルトサンダー「ベルトン」シリーズの自動機向け機種を拡販している。「ベルトンB-10-RBT-S」は、ロボットに取り付け、機械加工・ダイカスト部品のバリ取りや研磨を行う。長時間の安定稼働に貢献する設計が特長。二つのセンサーを内蔵し、モーターの起動不良と摩耗などによるベルト切れを検知する機能を備える。自動機内

コア

「Cagou IT点呼」に業務前自動点呼機能を追加



業務前自動点呼では、体温などの生体情報の測定も加わった

コアはICT(情報通信技術)で社会課題を解決する「ソーシャル・ソリューションメーカー」だ。価値を共創する企業としてサステナブル変革(SX)の実現に取り組んでいる。取り組みの一つとして、主に自動車運送事業者向けに2020年9月にサービスを始めたクラウド型点呼システム「Cagou(カグー)IT点呼」がある。業務終了後に行われる対面点呼と同等の点呼として24年に「業務後自動点呼」機能を追加。さらに業務開始0回までの点呼で年間3万円(消費税込)の標準機能で全ての点呼が可能。従来の点呼が可能なことや比較的安価なことから、2月現在約5万ドライバーが利用している。今後について、執行役員の小野進(ノビノシノ)は「他システムとの連携を図り、運送業向けシステムのプラットフォームを推進していきたい」としている。

大崎電気工業

スマートメーター、国内外で新製品投入



海外市場向け次世代スマートメーター「NEOS」

大崎電気工業は電力会社向けスマートメーター(通信機能付き電力量計)の国内トップメーカーとして、長年にわたり高品質な製品を提供している。国内では2025年に第2世代スマートメーターの生産を開始し、26年1月から本格販売を開始。従来のスマートメーターに比べ、通信機能や計測精度を向上させており、再生可能エネルギーの導入拡大に伴う電力の安定供給、電力レジリエンス(復元力)強化に貢献している。また、海外でも次世代スマートメーター「NEOS(ネオス)」の市場投入がオセアニア地域で始まった。計測・通信機能の向上に加え、ソリューションシステムと組み合わせることにより、高精度で電力使用量の計測が可能となった。高速通信にも対応しており、電力会社は異常検知や使用状況をリアルタイムで監視でき、より迅速な制御を行える。

富士ダイス

鋼の4倍の耐摩耗性を持つ新合金投入



開発した新合金「サステロイ STN30」

富士ダイスはモノづくりに必要な超硬合金製の工具・金型メーカーだ。素材開発力・精密加工技術に強みがあり、超硬耐摩耗工具市場で国内トップシェアを誇る。原料粉末の調製から焼結・機械加工・製品検査まで一貫生産体制で幅広い業種の顧客と取引している。満を持して2025年10月に市場投入したが、新たに開発した合金「サステロイ STN30」だ。汎用超硬合金と同等で鋼の4倍の耐摩耗性を確保した。比重は鋼程度で超硬合金の約5分の3。回転工具に使用すると、装置への負荷軽減により、タンクステーションとコバルトの含有量を約9割削減している。技術開発発本部長の篠田(ノノ)は「サステロイのシリーズ化を着々と進めていく」としている。

巴工業

水素関連製品、国内市場に積極展開



水素濃度センサー「TCD3000」

巴工業は機械事業と化学事業を展開している。遠心分離機で国内トップ規模のシェアを持つ同社が、次の成長領域として位置付けるのが水素関連製品だ。欧州メーカー各社と提携し、日本市場への展開を積極的に進めている。中核製品の1つが、ドイツ・アチガス社製の「水素濃度センサー(TCD3000)」だ。ガス中の熱伝導率の変化を測定することで濃度を算出する。水素のほか、二酸化炭素(CO₂)中の酸素や純度など幅広い測定に対応する。配管に直接取り付けられるインライン型で、水分に強い構造を持っている」としている。

GO with OSAKI

地球の未来を「見える化」解決

計測・制御のリーディングカンパニーとして、電力の「見える化」をさらに推進し、社会に新しい価値を、人々に安心・快適な暮らしを届けます。

CO₂エネルギー管理
プラットフォーム
O-SOL(オーソール)
スマートメーター

大崎電気工業株式会社
https://www.osaki.co.jp/

巴工業は、二つのコアビジネスで 多様なニーズにお応えします

～日本における遠心分離機メーカーのバイオニアとして～
進化を続ける技術力で、豊かな暮らし・自然との共生を演出します。
～グローバルネットワークを強みとする
化学工業製品の専門会社として～
高機能、高付加価値でニッチな商品を提供します。

〒141-0001 東京都品川区北品川5-5-15 大崎プライトコア
TEL: 03-3442-5120 https://www.tomo-e.co.jp

その感動のウラに、富士ダイス。

富士ダイスは1949年の創業以来、ものづくりに不可欠な超硬耐摩耗工具を開発・製造し、暮らしと産業の進化を支え続けてきました。私たちは、人と素材と技術の力で、世界中に感動体験をお届けする企業へと進化し続けます。

タングステン、コバルトの使用量を9割削減した新合金

省資源×軽量×耐摩耗

サステロイ STN30

鋼と同等の軽さで
約4倍の耐摩耗性を実現!

お問い合わせ先 営業本部 営業推進部
本社: 〒146-0092 東京都大田区下丸子2-17-10
TEL: 03-3759-7124
MAIL: sales.div@fujidie.co.jp

NITTO KOHKI

ロボット搭載で
作業の自動化・省力化・無人化を実現

技術で、人を想う。

YouTube
日東工器チャンネル

日東工器株式会社
— 主な事業内容 — 迅速流体継手「カブラ」/省力化機械工具/リニア駆動ポンプとその応用製品/建築機器(ドアクローザ)
本社・研究所/東日本支社 〒146-8555 東京都大田区仲池上2-9-4 Tel: 03-3755-1111(代表) www.nitto-kohki.co.jp

